

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 京極町内の小・中学校の状況及び今後の体力向上策

学校数：小学校1校・児童数23名、中学校1校・生徒数17名

○ 実技に関する調査の状況

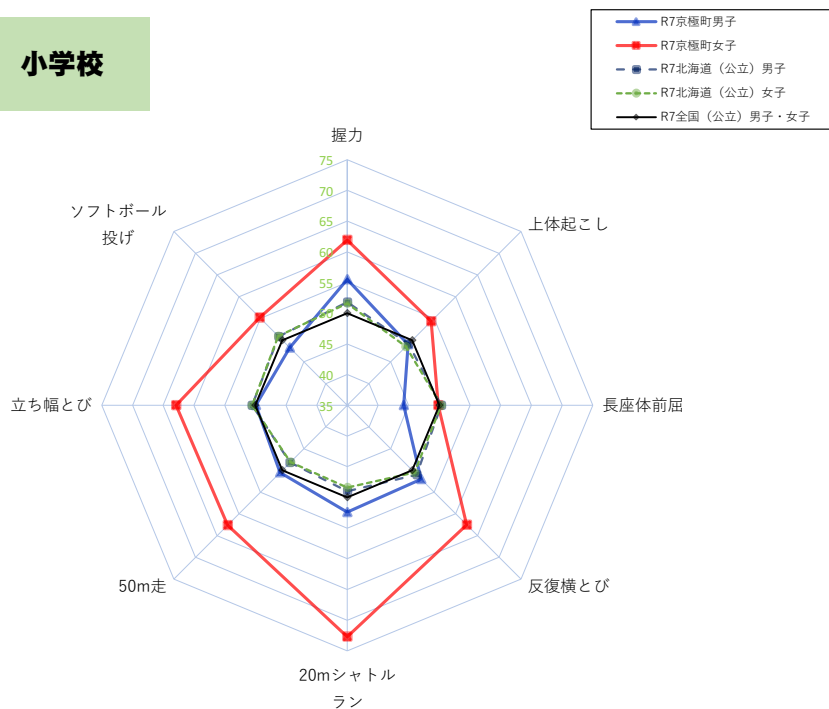
・各種目の記録及び体力合計点

小学校	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
R7京極町男子	18.11	18.83	28.72	42.61	53.11	9.41	150.67	19.67	52.39
R7京極町女子	20.2	20.8	38	48.2	73.2	8.52	173.6	15.6	67.8
R7北海道(公立)男子	16.68	18.9	34.13	41.71	45.85	9.66	152.08	21.72	53
R7北海道(公立)女子	16.24	17.54	38.38	39.11	34.35	9.96	143.65	13.56	53.55
R7全国(公立)男子	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
R7全国(公立)女子	15.61	18.36	38.15	38.7	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

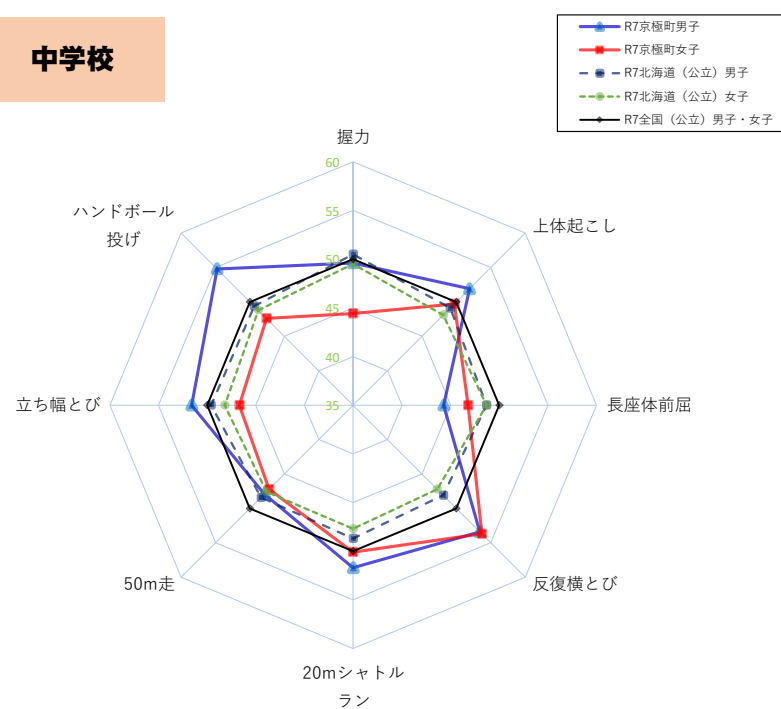
中学校	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
R7京極町男子	28.67	27.27	38.6	54.87	83.2	8.19	202.64	23.75	41.58
R7京極町女子	20.5	21.5	43.5	48.67	50.83	9.23	157	11.4	44.4
R7北海道(公立)男子	29.32	25.54	43.64	49.85	75.47	8.15	196.24	20.38	40.88
R7北海道(公立)女子	22.89	20.53	45.54	43.55	46.1	9.19	161.4	11.92	44.7
R7全国(公立)男子	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	8	197.51	20.74	42.2
R7全国(公立)女子	23.15	21.7	46.99	45.74	50.6	8.97	166.44	12.43	47.58

・各種目の全国平均値を50とした場合(T得点)の全道及び京極町の状況をレーダーチャートで表示

小学校



中学校

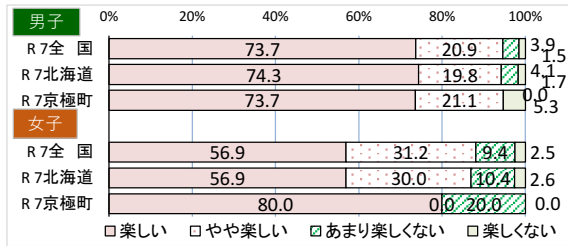


○ 質問調査（児童生徒質問調査・学校質問調査）の状況

小学校

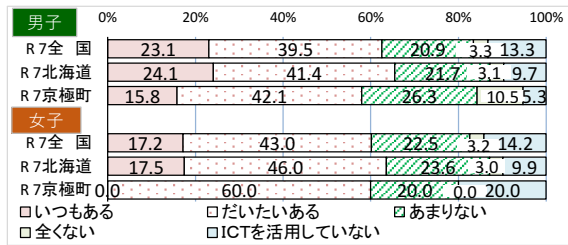
【児童質問調査】

・体育の授業は楽しいですか



【児童質問調査】

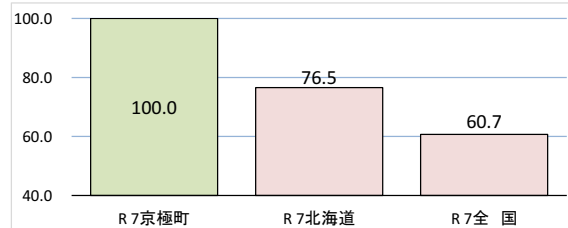
・体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



【学校質問調査】

小学校

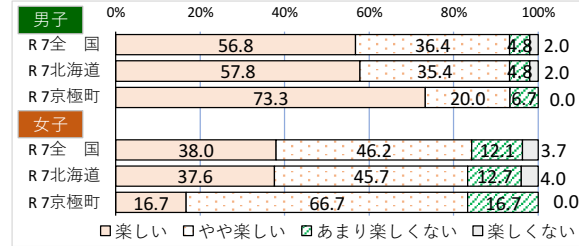
・体育授業で児童同士で話し合う活動を全ての学年で取り入れている。



中学校

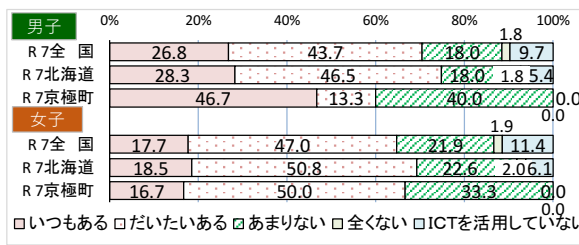
【生徒質問調査】

・保健体育の授業は楽しいですか



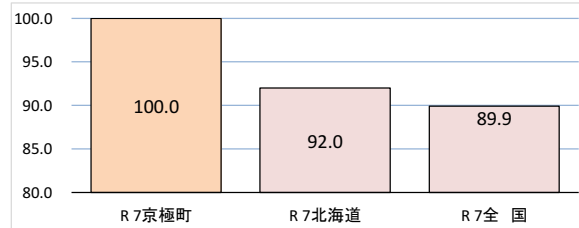
【生徒質問調査】

・保健体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



中学校

・保健体育授業で生徒同士で話し合う活動を全ての学年で取り入れている。



■ 調査結果の分析

小学校

【成果】

・小学校においては、体育授業において児童同士で話し合う活動を全ての学年で取り入れたことにより、協働的に学びながら学習課題に取り組む意欲が高まり、「体育の授業が楽しい」と感じる児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【課題】

・体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することについて、全国及び全道を下回っている状況は、体育授業でのICT活用頻度が全国及び全道の半数以上が週に1時間以上活用していることに対し、月に1時間程度に留まっていることが要因の一つとして考えられる。

中学校

【成果】

・中学校においては、保健体育授業において生徒同士で話し合う活動を全ての学年で取り入れ、ICTを毎時間活用していることにより、「保健体育の授業が楽しくない」と答えた生徒が0名となり、楽しい・やや楽しいと感じる生徒の割合が全国及び全道とほぼ同じとなったと考えられる。

【課題】

・「保健体育の授業があまり楽しくない」と答えた生徒は、男女ともに全ての生徒が「自分に合ったペースで行うことができた」楽しくなると答えていることから、学習課題に取り組むための学習者による自己選択の機会や課題に向かうための時間が不足していることが要因の一つとして考えられる。

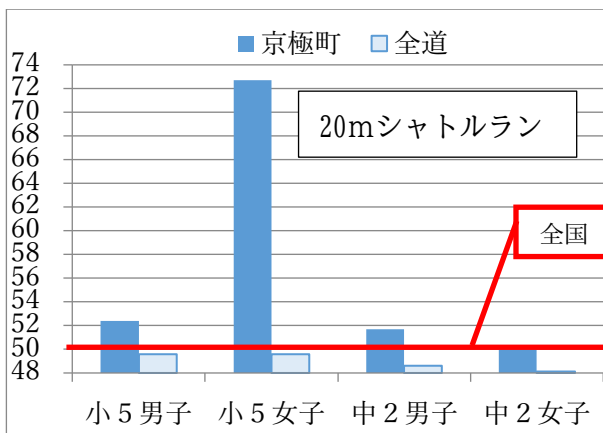
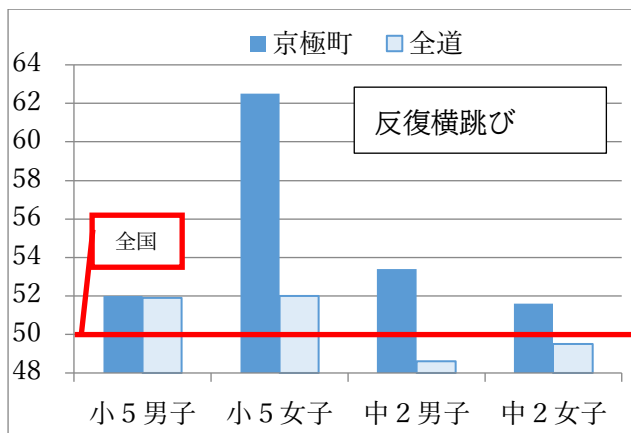
■ 京極町の体力向上に向けた改善方策

- ・京極町教育研究会や京極町教育研究所における全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を踏まえた体力向上や体育・保健体育授業の改善・充実に係る資料の作成及び普及啓発
- ・スポーツ庁の「ICT端末を活用した体育・保健体育授業の事例集」を参考にしたデジタル学習基盤を活用した「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の推進
- ・体力向上に向けた各学校独自の「体力向上1実践」の推進
- ・学校運営協議会やPTAとの連携による望ましい運動習慣や生活習慣の確立に向けた取組方策の検討及び事業の企画・実施
- ・運動、生活習慣への意識づけにつなぐ保健の授業改善

追加資料（町内小中学校の共通となった調査結果）

（1）成果及び強みとして考えられる結果

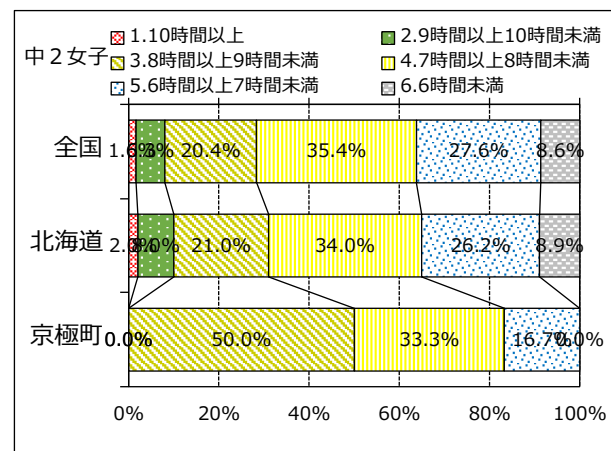
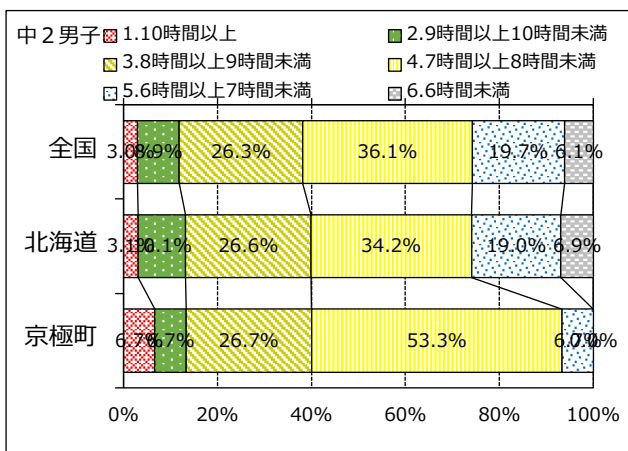
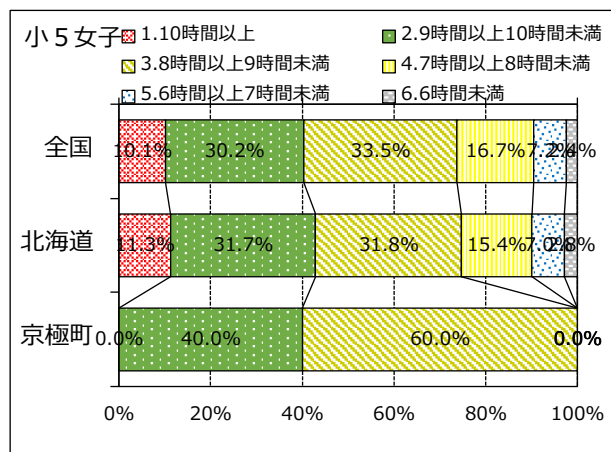
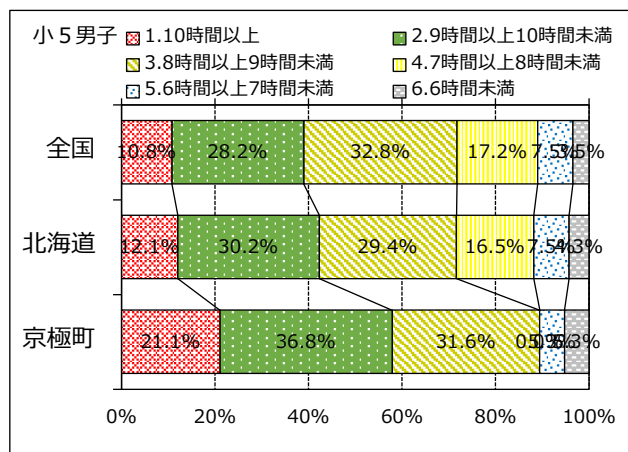
①実技集計（4集団全てが全国平均を上回ったもの）



小学校においては、体育授業時に準備運動の一つとして、動的ストレッチを全学年で取り入れたことにより、全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校においては、保健体育授業時に2分 Run と跳躍が多く含まれるウォームアップ体操を全学年で取り入れたことにより、全国及び全道を上回ったと考えられる。

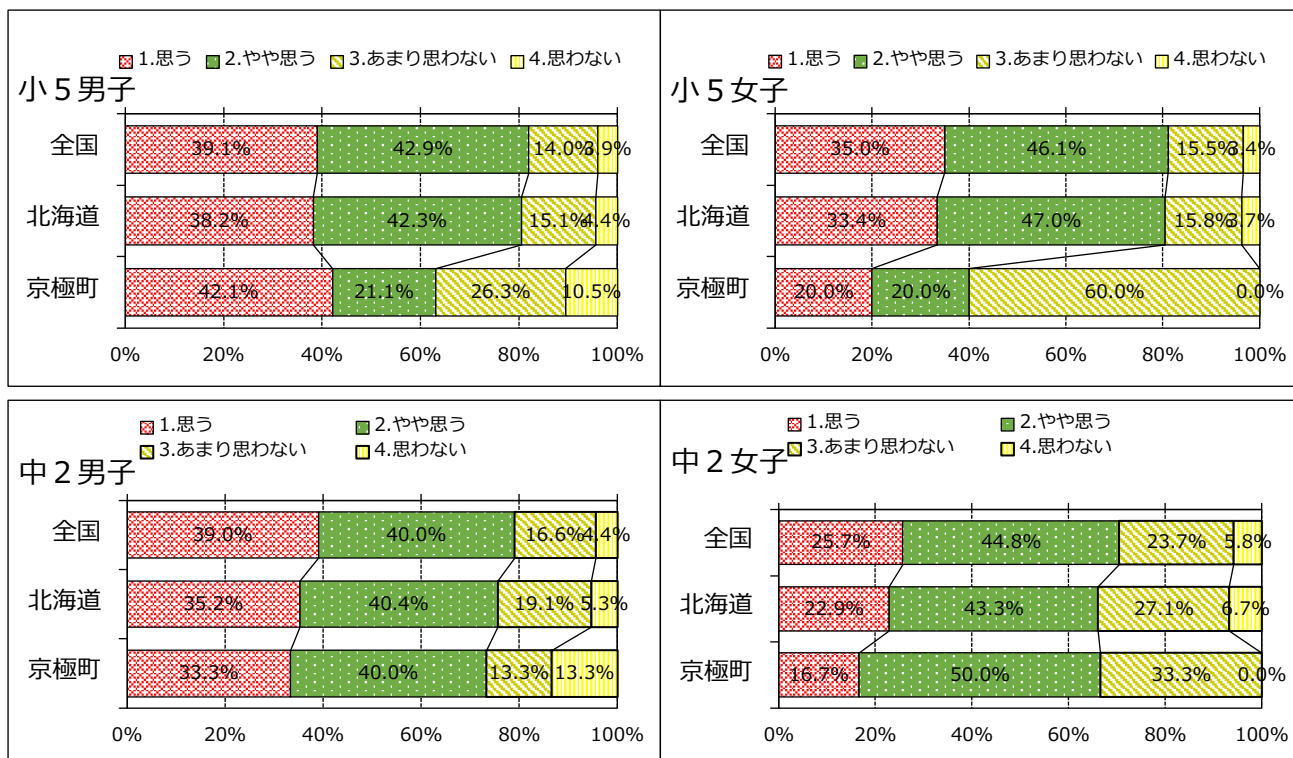
②児童（生徒）質問調査（毎日どのくらい寝ていますか）



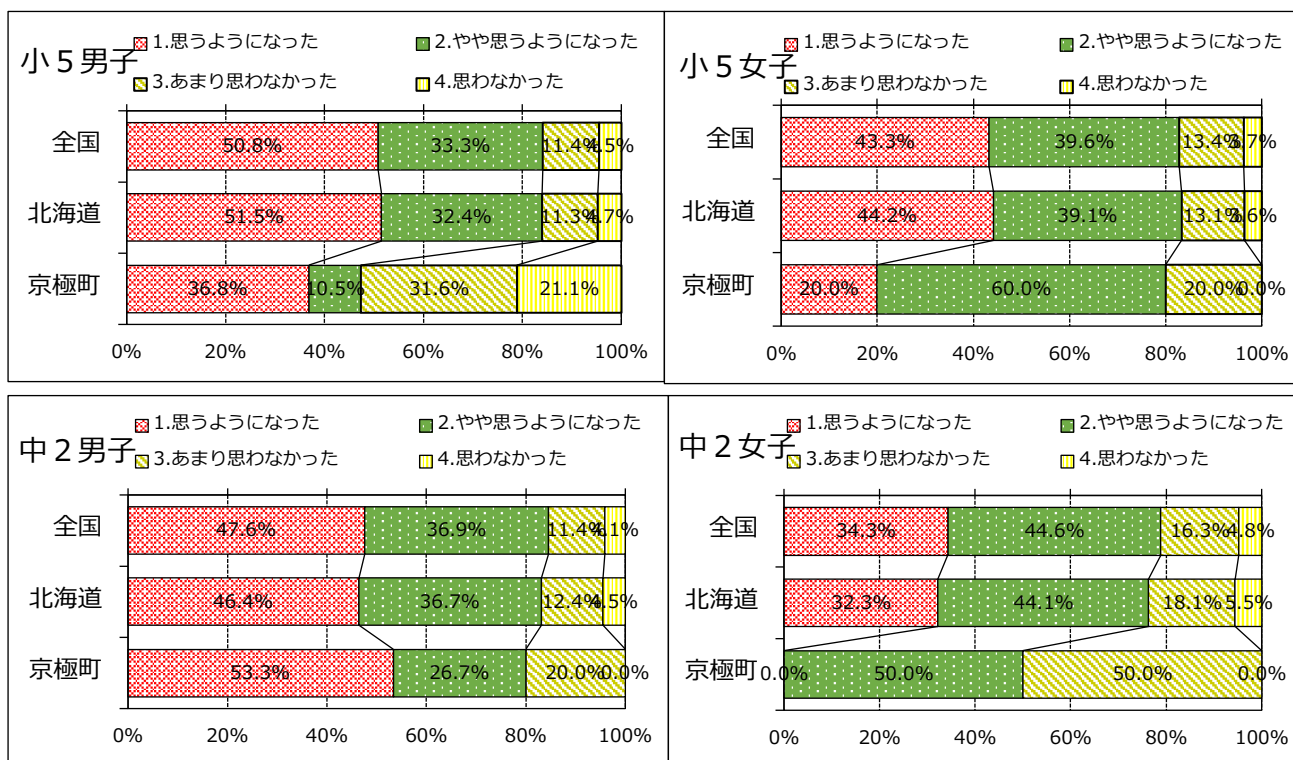
4集団全てにおいて、8時間以上寝ている割合が全国よりも上回っている。

(2) 課題として考えられる結果

(保健の授業で学習した運動、食事、休養及び睡眠に気がつけた生活を送れていると思いますか。)



(保健を学習して、もっと運動しようと思いましたか。)



保健授業の改善の必要性が示されたと考えられる。